



令和7年度 補助金等実績報告書

令和8年 4月30日

函館市長 大 泉 潤 様

住 所 函館市弁天町20番5号

補助事業者等 団体名 一般財団法人
函館国際水産・海洋都市推進機構

代表者氏名 代表理事 石 尾 清 広

補助事業等の名称 一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構運営事業

令和7年11月12日函企画をもって補助金等の交付決定を受けた上記の補助事業等は、令和8年3月31日完了したので、関係書類を添えて報告します。

補助金等交付決定通知額 金 12,349,000円

補助金等領収済額 金 12,349,000円

補助金等精算額 金 12,349,000円

補助金返還額 金 0円

補助事業等の実績書

申請者の概要	設立年月日 平成21年4月3日
	構 成 員 評議員8人、理事7人、監事3人
	営む主な事業 (1) 水産・海洋に関する学術研究機関の集積に関わる事業 (2) 地域と学術研究機関の連携に関わる事業 (3) 観光と学術研究機関の融合に関わる事業 (4) 水産・海洋と市民生活の調和に関わる事業 (5) 水産・海洋分野等に関わる調査・研究事業 (6) 函館市国際水産・海洋総合研究センター指定管理者事業 (7) その他この法人の公益目的を達成するために必要な事業 (8) 前各号に定める事業のほか、この法人の目的を達成するために必要な事業
補助事業等の 内 容	別添事業報告書のとおり
補助事業等の 実施による効果	「函館国際水産・海洋都市構想」を推進するため、産学官連携を強化し、大学等の研究機関と民間企業の共同研究の促進に取り組み、水産・海洋分野における研究・技術開発の促進により、雇用の創出や地域経済の活性化が図られた。
備 考	

- (注)
1. この様式は，補助金等の交付を申請し，または，これに係る実績報告をする場合に使用すること。
 2. 補助事業等の内容は，詳細に記載すること。（別紙も可）
 3. 工事の施行を伴う場合は，その実施設計書および図面を添付すること。
 4. その他必要と認めた書類を添付すること。

補助事業等の収支決算書

収入の部

[単位:円]

項 目	本年度予算額		本年度決算額		増 減		内 訳
		うち、 補助対象事業		うち、 補助対象事業		うち、 補助対象事業	
事業収入	147,760,000	0	147,760,000	0	0	0	指定管理料収入 83,025,000 円 委託事業収入 64,735,000 円
補助金等収入	12,889,000	12,349,000	12,889,000	12,349,000	0	0	函館市補助金収入 12,349,000 円 民間助成金収入 40,000 円 受託研究費収入 500,000 円
雑収入	154,000	154,000	168,109	77,239	14,109	△ 76,761	受取利息収入 90,773 円 雑収入 77,336 円
合 計	160,803,000	12,503,000	160,817,109	12,426,239	14,109	△ 76,761	

支出の部

[単位:円]

項 目	本年度予算額		本年度決算額		増 減		内 訳
		うち、 補助対象事業		うち、 補助対象事業		うち、 補助対象事業	
自主事業費支出	2,267,000	2,267,000	2,515,423	2,432,543	△ 248,423	△ 165,543	水産・海洋と市民生活の調和事業 2,077,364 円 広報に関わる事業 438,059 円 ※補助対象外経費 82,880 円
受託事業費支出 （指定管理関係）	83,065,000	0	81,774,463	0	1,290,537	0	
受託事業費支出 （受託研究事業支出）	500,000	0	503,715	0	△ 3,715	0	
受託事業費支出 （委託事業支出）	64,735,000	0	66,283,098	0	△ 1,548,098	0	
管理費支出	10,236,000	10,236,000	11,157,950	10,290,978	△ 921,950	△ 54,978	職員給与支出 7,574,150 円 手当等支出 2,169,899 円 その他管理費 1,413,901 円 ※補助対象外経費 866,972 円
次期繰越金	0	0	0	0	0	0	
合 計	160,803,000	12,503,000	162,234,649	12,723,521	△ 1,431,649	△ 220,521	

収支差引額

△ 1,417,540 円

（注）1. この様式は、補助金等の交付を申請し、または、これに係る実績報告をする場合に使用すること。

2. 項目は、詳細に区分して記載すること。

3. 金額の単位は、申請の場合「千円」、実績報告の場合「円」とすること。

4. 内訳には、金額の算出基礎その他必要な事項を記載すること。

5. その他必要と認めた書類を添付すること。

一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構運営事業 令和7年度事業報告書

1. 運営に関わる事業

一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構の運営に必要な事務局職員を雇用し、一般財団法人函館国際水産・海洋都市推進機構定款に基づく、公益目的事業に取り組むとともに、評議員会並びに理事会等を開催し、組織の適切な運営を推進した。

(1) 事務局職員の雇用状況

事務局長1名、事務員1名、臨時職員1名を雇用した。雇用契約期間は、令和7年4月1日から令和8年3月31日まで（事務員1名は無期雇用）。

(2) 評議員会・理事会等の開催状況

①令和7年度定時評議員会（令和7年6月12日開催）

評議員5名、業務執行理事、監事1名が出席し、令和7年度第1回理事会での決議事項である令和6年度事業報告について報告後、令和6年度決算報告、評議員・理事・監事の任期満了に伴う後任の選任に係る議案を審議した結果、出席評議員全員異議なく承認可決された。

②令和7年度臨時評議員会（令和7年6月12日開催）

評議員5名、業務執行理事、監事1名が出席し、令和7年度定時評議員会での評議員選任決議を受けて、評議員長の選定についての議案を審議した結果、久保 俊幸 氏を再任することについて、出席評議員全員異議なく承認可決された。

③令和7年度第1回理事会（令和7年5月27日開催）

理事6名、監事3名が出席し、令和6年度事業報告・決算報告、令和7年度定時評議員会招集についての議案を審議した結果、出席理事全員異議なく承認可決された。

④令和7年度第2回理事会（令和7年6月12日書面決議）

令和7年度定時評議員会での理事選任決議を受けて、代表理事並びに業務執行理事の選定についての議案を書面により提案し、代表理事に 石尾 清広 氏、業務執行理事に 嵯峨 直恒 氏を再任することについて、理事全員から同意書の提出があり、また、監事全員から異議がない旨の確認書が提出され、承認可決された。

⑤令和7年度第3回理事会（令和8年2月19日開催）

理事6名、監事1名が出席し、令和8年度事業計画案および収支予算案、職員給与規程の一部改正、契約職員就業規則の一部改正、臨時契約職員就業規則の一部改正についての議案を審議した結果、出席理事全員異議なく承認可決された。

⑥令和6年度事業監査会（令和7年5月19日開催）

監事3名が出席し、令和6年度事業報告並びに財務諸表について事務局より説明を行い、会計諸帳簿や関係書類の閲覧により検証が行われ、指摘事項はなく、財務諸表の正確性並びに事業報告書の内容について認定された。

2. 水産・海洋と市民生活との調和に関わる事業

・函館マリンフェスティバル2025

（7月19日、20日・海洋研究センター）

水産海洋に親しむ市民参加型のイベントとして、主に子ども達の体験を目的とした催しを中心に、2日間にわたり、海に触れる多彩なプログラムを実施した。

子どもたちに大人気の「タッチプール」では、函館近郊に生息するヒトデやヤドカリ類、カニ類、ウニのほか、ウミウシなど小型の生物を、水槽で動きをじっくり観察できるよう展示した。毎年このコーナーを楽しみにしている子や、初めてでおっかなびっくりだった子どもたちも、専門スタッフ（北海道大学水産学部北方圏生物研究会学生）の解説を聞きながら普段触れることのない生き物に直接触れる貴重な体験となった。

毎年恒例となっている「海藻おしば・海藻万華鏡づくり」をはじめ、「海と地球のペーパークラフトづくり」「海を学ぶ体験コーナー」でのフィッシュプリントングでは、多くの親子連れが思い思いの作品づくりを楽しんだほか、幼児向けの「マグネットつりぼり」では、実物大の魚のパネルが釣れる楽しみもあり、まだ釣りを経験したことのない小さなお子さんをはじめとして多くの子どもたちで賑った。

海洋研究センターの大型実験水槽では、アブラツノザメやサバのほか、養殖研究で作出したキングサーモンなどを群泳展示し、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター協力のもと、水中カメラを駆使し、より間近で生き物たちの水中での様子を観察できる「魚類の行動観察と群泳展示」を実施しました。水中カメラの体験操作も賑わいを見せ、海洋研究センターならではの研究の一端を体験してもらう貴重な機会となった。

その他、協力団体の催しとして、函館モノクラフトマーケットによる「海をテーマとしたモノづくり体験」や、Bay Walk Community はこだてによる「ローイングマシン体験」、北海道開発局函館開発建設部函館港湾事務所による「函館みなとパネル展」、1日目には、「表千家流学校茶道会」、2日目には、函館水産試験場による「マリン縁日」と、試験調査船「金星丸」による船内見学会も行われた。

函館マリカルチャープロジェクトのPRコーナーでは、昆布水の試飲や昆布などの各種展示を行ったほか、現在養殖研究に取り組んでいるキングサーモンを調理したフライの試食も行った。

屋外には、市内の海産物の売店やカラフルなキッチンカーも出店し、イ

ベントを盛り上げていただいた。

本イベントでは、地域探究学習の一環として市立函館高等学校の生徒がペーパークラフト作製ブースなどの運営スタッフとして参加し、イベント運営を体験した。

市民の認知度も年々高まり、2日間で過去最高となる8,861名の来場があり、多くの家族連れで賑わった。

本イベントの実施にあたり、海洋研究センターの入居機関や海のサポーターの協力を得たほか、国の関係機関や地域の関係団体等とも連携を図った。

3. 広報に関わる事業

(1) ニュースレターの発行

2025年中に推進機構で取り組んだ事業をについて紹介する「ニュースレターNo.45」(A4版8ページ)を令和8年1月に2,000部発行し、市内の水産関係団体をはじめ、渡島管内の市町村や漁業協同組合、国や道などの公的機関、市内の公共施設や企業、海洋研究センター入居機関などへ幅広く配布を行うとともに、機構のホームページにも掲載した。

主な内容は、「キングサーモン完全養殖技術研究事業」をはじめ「函館マリカルチャープロジェクト」の取組状況や機構主催のイベント・講演会等の実施状況について紹介した。

(2) 推進機構ホームページの運用運営

各種講演会やイベント等の事業に係る周知を行うとともに、都市構想の概要や沿革などを掲載し、その取り組みについて広く周知を行った。